

糖尿病について

糖尿病はインスリンが十分に働かないために血糖が増えてしまう病気です。インスリンは膵臓（すいぞう）から出るホルモンで血糖を一定の範囲に収める働きをもっています。

糖尿病の病態には、**インスリン分泌不全**（インスリンの量が足りなくなる）と**インスリン抵抗性**（インスリン作用の障害）があります。

◎インスリン分泌不全とは

インスリンを作っている膵臓の機能が低下してしまい、十分なインスリンが作られなくなっている状態。

◎インスリン抵抗性とは

膵臓で十分なインスリンが作られてはいるが、何かしらの原因でインスリンの効果が発揮されていない状態。

・糖尿病の種類

糖尿病には成因によっていくつかの種類があります。大きく分けると「**1型糖尿病**」、「**2型糖尿病**」、「**特定の原因によるその他の型の糖尿病**」「**妊娠糖尿病**」です。

◎1型糖尿病

1型糖尿病は膵臓でインスリンが生成されなくなることで血糖値が高くなります。生命の維持にはインスリン注射が必要です。

◎2型糖尿病

2型糖尿病はインスリン分泌が少なくなったり、インスリンが効きにくくなったり（インスリン抵抗性）することで、血糖値が高くなります。

原因として遺伝や加齢、食べすぎや運動不足などの生活習慣が原因とされています。

1型糖尿病と2型糖尿病の特徴

	1型糖尿病	2型糖尿病
発症年齢	若年者に多い	中高年に多い
体型	やせ型が多い	肥満を有することが多い
症状	急激に症状が現れる	症状が出ない場合もあり緩徐に進行する。
原因	膵臓のB細胞が壊れてしまいインスリンを作ることが出来ず高血糖となる	遺伝や生活習慣が原因となりインスリンの作用が働かなくなり高血糖となる。
治療	インスリン注射が必要	食事療法や運動療法、薬物療法。場合によってはインスリン注射

◎特定の原因によるその他の型の糖尿病

糖尿病以外の病気（内分泌疾患や肝疾患など）や治療薬（ステロイド服用など）に伴って発症することがあります。

◎妊娠糖尿病

妊娠中に発症、もしくは初めてわかった、まだ糖尿病には至っていない血糖の上昇をいいます。

すでに糖尿病が明らかで妊娠した場合はこれに含まれず、糖尿病合併妊娠といわれます。